

セッションA「ターミナルケア1」

9 : 00 ~ 10 : 10

座長：森 清 (特別医療法人大和会 在宅サポートセンター センター長)

A-1 癌で看取った独居老人の4症例

小野 宏志、細田 修、小野 秀子
坂の上ファミリークリニック

A-2 診療所所長一年目 在宅末期10例の振り返り

有馬 泰治、富山 恵子、山下 由紀絵
千鳥橋病院付属たちばな診療所

A-3 東花園クリニック6年間の在宅看取りと訪問診療の検討

古賀 友之¹⁾、杉琴 さやこ²⁾、木野田 茂¹⁾
¹⁾医療法人きのだ会、²⁾東大阪市立総合病院

A-4 他職種連携で効を奏した気管切開術後患者の症例

奥平 かおり¹⁾、長嶺 由利子¹⁾、後藤 真恵¹⁾、金城 成子¹⁾、大嶺 淳子¹⁾、下地 幸子¹⁾、大浜 篤¹⁾、
名嘉村 博¹⁾、町田 尊²⁾、梶浦 耕一郎²⁾、喜瀬 貴則²⁾、肥谷 菊乃³⁾、玉那覇 牧子⁴⁾、下地 マリ子⁵⁾、
神谷 明⁵⁾、片平 賢一⁶⁾
¹⁾名嘉村クリニック、²⁾浦添総合病院、³⁾ことぶき居宅介護支援事業所、⁴⁾つるかめ訪問看護ステーション、
⁵⁾株式会社 琉球光和、⁶⁾株式会社 東レ・メディカル沖縄総代理店MC沖縄販売株式会社

A-5 非侵襲的間歇陽圧人工呼吸器を在宅で導入し得た一症例

永井 京子^{1,2)}、大塚 篤子^{1,2)}、山本 真利子¹⁾、赤沼 まゆみ²⁾、後藤 由美子²⁾、今井 由香³⁾、
下崎 美雪³⁾、宮前 峯子³⁾、古川 寿子²⁾、石井 利明³⁾、石井 咲織¹⁾
¹⁾ねむのきクリニック、²⁾訪問看護ステーションなごみ、³⁾石井医院

A-6 在宅人工呼吸に移行した肺結核後遺症患者をとおして末期呼吸不全における decision-makingを考える

立石 彰男¹⁾、白藤 雄五¹⁾、坂田 勇司²⁾、松永 信²⁾
医療生活協同組合健文会・宇部協立病院 ¹⁾内科、²⁾外科
共同研究者：宇部協立病院2階病棟看護スタッフ、虹の訪問看護ステーション看護スタッフ

A-7 中心静脈施行中の独居胃がん症例の看取り

大塚 篤子^{1,2)}、永井 京子^{1,2)}、山本 真利子²⁾、赤沼 まゆみ¹⁾、後藤 由美子¹⁾、今井 由香³⁾、
下崎 美雪³⁾、宮前 峯子³⁾、古川 寿子¹⁾、石井 咲織²⁾、石井 利明³⁾
¹⁾訪問看護ステーションなごみ、²⁾ねむのきクリニック、³⁾石井医院

A-8 在宅緩和ケアで実現する一人暮らしの看取り～パターン分類～

小笠原 文雄¹⁾、山田 由美子¹⁾、佐々 寛己¹⁾、木村 久美子²⁾、武仲 真知子²⁾、五島 早苗²⁾、
野田 裕子²⁾、真名井 初美²⁾、中村 美穂²⁾、竹中 美香²⁾、三嶋 悦子²⁾、二村 美紀²⁾
¹⁾医療法人聖徳会小笠原内科、²⁾医療法人聖徳会小笠原訪問看護ステーション

A-9 在宅医療には漢方を(1) 消化器疾患編

山口 竜司¹⁾、山口 誓子^{1,2)}
¹⁾山口診療所、²⁾生長会府中病院

セッションB「緩和ケア、救急医療、IT、皮下輸液、輸血」

9 : 00 ~ 10 : 10

座長：今村 昌幹 (沖縄県立八重山病院 内科部長)

B-1 在宅における皮下輸液の実態調査

鈴木 央、森 清、石垣 泰則、藤田 亜紀

日本在宅医学会研究委員会

B-2 在宅における輸血の実態調査

鈴木 央、森 清、石垣 泰則、藤田 亜紀

日本在宅医学会研究委員会

B-3 在宅ホスピスケアにおける持続的鎮静の現状と今後の課題

塚口 哲次、竹澤 和枝、古田 睦美、宮原 一枝、中尾 勝子

クリニックこまつ在宅医療室

B-4 神経ブロック無効の癌性疼痛に対しモルヒネ及びケタミン静注にて疼痛コントロールし在宅管理に移行した一例

石田 進

名古屋第二赤十字病院 麻酔科

B-5 疼痛管理におけるレスキュー使用の実際

岡 豊香¹⁾、前野 薫¹⁾、市川 勇¹⁾、泰川 恵吾²⁾、串田 一樹³⁾

¹⁾タカノ薬局鎌倉店、²⁾鎌倉常盤クリニック、³⁾昭和薬大

B-6 メールングリストを利用した各職種間・各施設間の連携

～法人内メールサーバーによる連絡網の構築～

外園 真由美¹⁾、酒匂 カズエ¹⁾、池添 ヨシ子¹⁾、堂園 千恵¹⁾、内村 瑞代¹⁾、大平 典子¹⁾、
瀬戸口 真由美¹⁾、田原 やす子¹⁾、枝元 尚子¹⁾、川上 咲子²⁾、川上 秀一²⁾

¹⁾医療法人 明輝会 内村川上内科 外来・在宅看護部、²⁾医療法人 明輝会 内村川上内科

B-7 在宅現場からのVPN (Virtual Private Network)接続を用いた情報共有

泰川 恵吾¹⁾、久島 和洋¹⁾、曾我 幸弘¹⁾、今井 一登²⁾、吉田 雅俊³⁾

¹⁾ドクターゴン診療所、²⁾鎌倉常盤クリニック、³⁾パシフィックインフォメーションワールド

B-8 救急医が離島在宅医療を経験する意義

太田 凡

湘南鎌倉総合病院 救急総合診療科

B-9 在宅医療がもつ救急医療支援の可能性

曾我 幸弘¹⁾、久島 和洋¹⁾、泰川 恵吾²⁾、今井 一登²⁾

¹⁾ドクターゴン診療所、²⁾鎌倉常盤クリニック

セッションC「脳血管障害、認知症、神経難病など」

9 : 00 ~ 10 : 10

座長：山中 崇 (東京女子医科大学東医療センター 在宅医療部 准教授)

C-1 高齢者の慢性硬膜下血腫に対する五苓散の治療経験

高野 尚治¹⁾、高見 佳宏²⁾、橋本 康弘²⁾、西村 直久²⁾、高橋 聡³⁾、古田 博子³⁾
西部総合病院 ¹⁾脳神経外科、²⁾回復期リハビリテーション科、³⁾救急センター

C-2 脳梗塞後に全失語をきたしたが、少しずつ言葉を発するようになり、書字も可能になった一例

浅井 宏友^{1,2)}、石橋 幸滋²⁾
¹⁾自治医科大学附属病院総合診療部、²⁾石橋クリニック

C-3 認知症患者における病態変化時の診断について

山中 崇^{1,2)}、高杉 絵美子^{1,2)}、入村 峰世²⁾、石澤 香野²⁾、堀田 典寛^{1,2)}、山本 直宗^{1,2)}、大塚 邦明²⁾
¹⁾東京女子医科大学東医療センター 在宅医療部、²⁾東京女子医科大学東医療センター 内科

C-4 筋萎縮性側索硬化症(ALS)在宅看取りの実践と問題点

荻野 美恵子¹⁾、荻野 裕²⁾、濱田 潤一¹⁾、坂井 文彦¹⁾
¹⁾北里大学医学部神経内科学、²⁾東芝林間神経内科

C-5 ALS在宅療養患者の療養方針と意思決定に関する考察 - 多職種連携と症例からみる現状と課題 -

一戸 由美子¹⁾、矢尾 知恵子²⁾、佐藤 志保子²⁾、平野 道代³⁾、大久保 仁美³⁾
¹⁾医療法人財団 河北総合病院 東京・杉並家庭医療学センター 診療部門、²⁾河北・杉並訪問看護ステーション、³⁾東京・杉並家庭医療学センター 相談部門

C-6 神経難病における大学との病診連携

(ALSの肺小細胞癌合併症例とパーキンソン病の喉頭全摘術症例)

佐藤 裕子¹⁾、牧野 美恵子²⁾、川野 初江²⁾、佐藤 博信³⁾、田口 享秀⁴⁾
¹⁾森が丘医院 内科、²⁾森が丘医院 看護師、³⁾神奈川リハビリテーション病院 脳神経外科、⁴⁾横浜市立大学附属病院 耳鼻咽喉科

C-7 2ヶ月後に迫った定年退職式典出席に向けてのチームアプローチ - 在宅介護を受けている寝たきりの多系統萎縮症患者の一例 -

木村 祐子¹⁾、星野 将隆²⁾、奈村 文³⁾、武田 江里子¹⁾、斎藤 真道¹⁾
船橋総合病院 ¹⁾リハビリテーション科、²⁾内科、³⁾在宅医療支援室

C-8 在宅患者の肺炎は、どこまでみれるか？ PORTスコア A-DROPは有用か？

大川 義弘
城北クリニック 内科

C-9 在宅医療導入後の医療費負担について～終末期の医療費負担は？～ 956例の検討から 小野沢 滋

医療法人鉄蕉会 亀田クリニック 在宅医療部

セッションD「施設在宅、介護予防」

9 : 00 ~ 10 : 10

座長：永井 康徳 (たんぼぼクリニック 院長)

- D-1** グループホーム入居者を中心にした連携とは～訪問看護の実際を通して考える～
上原 美香¹⁾、木佐貫 敬¹⁾、安田 美和¹⁾、川村 真弓¹⁾、横尾 智子¹⁾、川上 咲子²⁾、川上 秀一²⁾
¹⁾医療法人 明輝会 よしの訪問看護ステーション、²⁾医療法人 明輝会 内村川上内科
- D-2** 新しい「在宅」～高専賃における小規模多機能型居宅介護サービスと連携した在宅医療～
川上 秀一¹⁾、川上 咲子¹⁾、久木田 聡美²⁾
¹⁾医療法人 明輝会 内村川上内科、²⁾医療法人 明輝会 小規模多機能ホームひばり
- D-3** 小規模多機能型居宅介護施設の在宅療養支援への可能性
土井 正樹¹⁾、土井 輝子²⁾、前田 三千代²⁾、加藤 久美子¹⁾、日下 晶子²⁾、山田 和美²⁾、松尾 友美²⁾、
古屋 さかえ¹⁾
¹⁾土井医院、²⁾小規模多機能型居宅介護施設「かいで」
- D-4** 協働性トレーニングの老年性うつ病予防効果
岩尾 智¹⁾、堀 心一²⁾、三宅 奏衣²⁾、岩尾 範人³⁾、岩尾 康子³⁾
¹⁾愛知医療学院短期大学リハビリテーション学科、²⁾名古屋大学医学部、³⁾株式会社IRI
- D-5** 協働性トレーニングの転倒予防効果
岩尾 智¹⁾、堀 心一²⁾、三宅 奏衣²⁾、岩尾 範人³⁾、岩尾 康子³⁾
¹⁾愛知医療学院短期大学リハビリテーション学科、²⁾名古屋大学医学部、³⁾株式会社IRI
- D-6** 協働性トレーニングと認知症予防
岩尾 智¹⁾、堀 心一²⁾、三宅 奏衣²⁾、岩尾 範人³⁾、岩尾 康子³⁾
¹⁾愛知医療学院短期大学リハビリテーション学科、²⁾名古屋大学医学部、³⁾株式会社IRI
- D-7** 介護予防としての知覚・脳・筋の協働性トレーニング機器
岩尾 智¹⁾、堀 心一²⁾、三宅 奏衣²⁾、岩尾 範人³⁾、岩尾 康子³⁾
¹⁾愛知医療学院短期大学リハビリテーション学科、²⁾名古屋大学医学部、³⁾株式会社IRI
- D-8** 協働性トレーニングのNIROによる効果測定
岩尾 智¹⁾、堀 心一²⁾、三宅 奏衣²⁾、岩尾 範人³⁾、岩尾 康子³⁾
¹⁾愛知医療学院短期大学リハビリテーション学科、²⁾名古屋大学医学部、³⁾株式会社IRI
- D-9** 介護予防事業における試案モニタリングシートの開発とその信頼性および妥当性の検討
井上 高博¹⁾、福間 和美²⁾、横尾 誠一³⁾、片岡 未央⁴⁾
¹⁾神戸市看護大学看護学部、²⁾金沢医科大学看護学部、³⁾長崎大学大学院医歯薬総合研究科保健学専攻、
⁴⁾長崎原子爆弾被爆者対策協議会

セッションE「介護者支援、転帰」

9 : 00 ~ 10 : 10

座長：藤田 拓司 (医療法人拓海会 神経内科クリニック 理事長)

E-1 在宅療養患者の救急搬送症例の検討

島田 恵太、肥田 泰、小野 未来代

医療生協さいたま 浦和民主診療所

E-2 癌終末期 病院めぐりをした家族の不安

下川 久美子¹⁾、西 きよ美²⁾、保坂 幸男²⁾

¹⁾訪問看護ステーション泉、²⁾北多摩クリニック

E-3 在宅患者の喀痰吸引が家族介護に与える影響

藤田 拓司、居内 光子

(医)拓海会 神経内科クリニック

E-4 喀痰吸引が必要な在宅患者の呼吸器感染症の発生因子の検討

藤田 拓司、居内 光子

(医)拓海会 神経内科クリニック

E-5 在宅診療における主介護者の疾病管理と健康管理に関する調査

坂戸 慶一郎¹⁾、佐藤 友克²⁾、風間 真規子³⁾

¹⁾協立クリニック訪問診療担当医師、²⁾協立クリニック所長、³⁾協立クリニック訪問診療担当看護師

E-6 在宅療養中止症例の検討

荒井 康之¹⁾、太田 秀樹²⁾、富山 宗徳²⁾、福地 将彦²⁾

¹⁾常陸大宮済生会病院、²⁾医療法人アスムス

E-7 当院における定期訪問診療の概要と訪問診療中断・終了因子の検討

川越 誠志、日高 四郎

医療法人いなほ会 日高医院

E-8 訪問診療希望を取り下げた例の検討

三井 いずみ

甲府共立病院 訪問診療相談役 内科

E-9 在宅療養患者の転帰に関する施設横断的検討

児玉 有子¹⁾、木村 幸博²⁾、太田 秀樹³⁾、和田 忠志⁴⁾、小野沢 滋⁵⁾、平原 佐斗司⁶⁾、鈴木 央⁷⁾、
中村 幸泰⁸⁾、中野 一司⁹⁾、川越 正平¹⁰⁾

¹⁾東京大学医科学研究所、²⁾もりおか往診クリニック、³⁾おやま城北クリニック、⁴⁾あおぞら診療所新松戸、
⁵⁾亀田総合病院在宅医療部、⁶⁾東京ふれあい医療生協・梶原診療所、⁷⁾鈴木内科医院、⁸⁾ひのでクリニック、
⁹⁾ナカノ在宅医療クリニック、¹⁰⁾あおぞら診療所上本郷

セッションF「ターミナルケア2」

10 : 20 ~ 11 : 30

座長：辻 彼南雄 (ライフケアシステム メディカルディレクター)

- F-1** 与論島における在宅ターミナルケアの現状 1986年からの継続研究より
近藤 功行
沖縄キリスト教学院大学人文学部・沖縄キリスト教学院大学大学院異文化コミュニケーション学研究科
- F-2** 在宅ホスピスケアにおける輸血の現状と今後の課題
塚口 哲次、竹澤 和枝、古田 睦美、宮原 一枝、中尾 勝子
クリニックこまつ在宅医療室
- F-3** 目指す在宅死・施設死のための諸条件の検討
レシャード カレッド
医療法人社団健社会 レシャード医院
- F-4** 積雪地のへき地における在宅看取りについての検討
**小泉 健¹⁾、古川 俊貴¹⁾、吉嶺 文俊¹⁾、庭山 正信¹⁾、古川 香子¹⁾、阿部 昌洋²⁾、小川 龍²⁾、
伊倉 真衣子³⁾、井口 清太郎³⁾、長谷川 隆志³⁾、鈴木 栄一³⁾**
¹⁾新潟県立津川病院、²⁾阿賀町診療所、³⁾新潟大学医歯学総合病院医科総合診療部
- F-5** 在宅緩和ケア1000人の看取りの分析
○井尾 和雄¹⁾、片桐 淳¹⁾、石橋 了知¹⁾、林 裕家²⁾
¹⁾立川在宅ケアクリニック、²⁾桜町病院聖ヨハネホスピス
- F-6** 自宅での看取りを実現するための在宅緩和・家族ケア
**山田 由美子¹⁾、小笠原 文雄¹⁾、佐々 寛己¹⁾、木村 久美子²⁾、武仲 真知子²⁾、五島 早苗²⁾、
野田 裕子²⁾、真名井 初美²⁾、中村 美穂²⁾、竹中 美香²⁾、三鴨 悦子²⁾、二村 美紀²⁾**
¹⁾医療法人聖徳会小笠原内科、²⁾医療法人聖徳会小笠原訪問看護ステーション
- F-7** かかりつけ医をもつことで 癌終末期を安心して過ごせる
須原 幸子¹⁾、朝重 美代子¹⁾、西 きよ美¹⁾、森田 亜起¹⁾、相河 明規²⁾、保坂 幸男¹⁾
¹⁾北多摩クリニック、²⁾桜町病院
- F-8** 在宅導入後確認された癌症例の検討
**大原 宏夫¹⁾、岡部 宏美¹⁾、天野 八重子¹⁾、宮田 春加¹⁾、今野 紗奈恵⁵⁾、久保 仁²⁾、高野 祥直³⁾、
渡邊 一夫⁴⁾**
財) 脳疾患研究所附属総合南東北病院 ¹⁾在宅医療センター、²⁾同神経内科、³⁾同外科、⁴⁾同脳神経外科、
⁵⁾同医療相談室
- F-9** 「老衰」という病名がついた在宅死患者の要因に関する探索
今永 光彦、木村 琢磨、菊地 涼子、清河 宏倫、斉藤 成、青木 誠
国立病院機構東埼玉病院総合診療科

セッションG「地域連携」

10 : 20 ~ 11 : 30

座長：小野沢 滋 (医療法人鉄蕉会 亀田クリニック 在宅医療部 部長)

- G-1 重症で医療依存度が高い要介護透析患者の在宅ケア**
近森 正昭、光平 郁美、下元 小百合、後藤 玲子
近森グループ 近森病院透析外来
- G-2 勉強会開催による地域連携の円滑化**
神山 一行¹⁾、中村 哲生²⁾
¹⁾港北ニュータウン診療所、²⁾湘南なぎさ診療所
- G-3 当院訪問診療患者のご家族に対するアンケート調査からわかったこと**
星野 将隆¹⁾、奈村 文²⁾、塚本 哲也¹⁾
船橋総合病院 ¹⁾内科、²⁾在宅医療支援室
- G-4 急性期病院から立ち上げる在宅医療推進システム**
桑原 直行¹⁾、坂本 哲也¹⁾、鎌田 順子²⁾
秋田組合総合病院 ¹⁾地域医療連携室、²⁾看護部
- G-5 よりよい訪問診療と訪問看護の連携のために**
田中 久仁子¹⁾、浦田 昌美¹⁾、本村 澄子¹⁾、藤重 ひとみ¹⁾、古田 沢子¹⁾、有馬 泰治²⁾
¹⁾千代診療所在宅、²⁾千鳥橋病院付属たちばな診療所
- G-6 より充実した在宅医療の場を目指して**
細田 修、小野 秀子、小野 宏志
坂の上ファミリークリニック
- G-7 在宅療養支援診療所と介護支援専門員との連携を深めるために**
～ “集中ケア担当者会議”の試み～
川越 正平、松崎 麻都香、丹野 直子
あおぞら診療所
- G-8 地域医療連携により摂食嚥下障害患者へのチームアプローチを行った1例**
香川県摂食・嚥下障害研究会をベースとしての協創・協働的創造
坂東 達矢¹⁾、後藤 理恵子²⁾
¹⁾坂東歯科クリニック、²⁾香川大学医学部耳鼻咽喉科
- G-9 他職種連携が効果的であった末期がん患者に施行した在宅腹膜透析の一例**
安中 正和¹⁾、宮崎 正信²⁾、出口 雅浩³⁾、下屋敷 元子⁴⁾
¹⁾安中外科・脳神経外科医院、¹⁾宮崎内科医院、³⁾出口外科医院、⁴⁾長崎県看護協会訪問看護ステーションYOU

セッションH「口腔ケア、摂食嚥下、褥創ケア、服薬指導」

10 : 20 ~ 11 : 30

座長：原 龍馬 (医療法人社団同志会 原歯科医院 院長)

H-1 在宅ALS患者の口腔内状況と発熱との関係

山口 朱見¹⁾、十時 久子¹⁾、戸原 玄²⁾

¹⁾歯科衛生士、²⁾日本大学歯学部摂食機能療法学講座

H-2 在宅症例における未対応の摂食・嚥下障害患者に関する調査

尾島 麻希¹⁾、野原 幹司¹⁾、小谷 泰子¹⁾、岸川 裕²⁾、阪井 丘芳¹⁾

¹⁾大阪大学歯学部 顎口腔機能治療部、²⁾医療法人 岸川歯科

H-3 在宅診療において摂食・嚥下障害に対応し経管栄養離脱した例

服部 史子¹⁾、戸原 玄²⁾

¹⁾国立病院機構東京病院歯科、²⁾日本大学歯学部摂食機能療法学講座

H-4 訪問歯科医と訪問STの連携による遷延性意識障害に起因する摂食・嚥下障害患者へのアプローチ

中川 量晴^{1,4)}、石山 寿子^{2,3)}、戸原 玄⁴⁾、植田 耕一郎⁴⁾

¹⁾医療法人社団立靖会 ひまわり歯科、²⁾医療法人社団永生会 永生クリニック リハビリテーションセンター、³⁾訪問看護ステーション とんぼ、⁴⁾日本大学歯学部摂食機能療法学講座

H-5 訪問歯科診療における嚥下専門部門の役割 - 訪問嚥下診療の実際

小谷 泰子¹⁾、野原 幹司¹⁾、尾島 麻希¹⁾、岸川 裕²⁾、阪井 丘芳¹⁾

¹⁾大阪大学歯学部附属病院 顎口腔機能治療部、²⁾医療法人 岸川歯科

H-6 ラップ療法で完治した足背部のIII度熱傷

久島 和洋¹⁾、泰川 恵吾^{1,2)}、曾我 幸弘^{1,2)}、今井 一登²⁾

¹⁾医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン診療所、²⁾医療法人鳥伝白川会 鎌倉常盤クリニック

H-7 在宅診療で可能なburied chip skin grafting (BCSG)による褥瘡治療

佐藤 治明、小野 隆宏

優心会ハートクリニック

H-8 調剤薬局における在宅訪問薬剤管理指導

～患者背景の理解と服薬コンプライアンス把握への取り組み～

古川 典之¹⁾、蝦名 啓司¹⁾、高橋 諭¹⁾、金子 一成²⁾

¹⁾ハロー薬局 薬剤師、²⁾札幌・すがた医院 医師

H-9 在宅医療における薬局・薬剤師の今後のあり方

～福祉国家デンマーク、スウェーデンを参考に～

加藤 久幸¹⁾、飯島 康典²⁾、岩月 進³⁾、寺脇 大⁴⁾、曲淵 直喜⁵⁾、寺脇 康文⁴⁾、坂巻 弘之⁶⁾

¹⁾雙葉薬局、²⁾イイジマ薬局、³⁾ヨシケン岩月薬局、⁴⁾(株)文寿、⁵⁾あさひ薬局、⁶⁾名城大学薬学部

セッションI「在宅復帰(退院支援)」

10:20~11:30

座長：田城 孝雄(順天堂大学医学部公衆衛生学講座 准教授)

I-1 急性期脳梗塞後の在宅復帰を目指して

中嶋 浩二¹⁾、糸川 博²⁾、岡坂 政人³⁾、山岸 水穂⁴⁾、平川 有延⁵⁾、美間 由紀⁶⁾、鈴木 龍太²⁾、藤本 司²⁾

¹⁾東戸塚記念病院脳神経外科、²⁾昭和大学藤が丘病院脳神経外科、³⁾東戸塚記念病院リハビリテーション科、
⁴⁾東戸塚記念病院医療福祉相談室、⁵⁾東戸塚記念病院地域医療連携室、⁶⁾東戸塚記念病院診療情報管理室

I-2 「在宅医療支援室」と病院外の在宅関連各部署との連携について アンケート調査による考察

奈村 文¹⁾、星野 将隆²⁾、石井 久美子¹⁾

船橋総合病院 ¹⁾看護部 在宅医療支援室、²⁾内科

I-3 急性期医療と連携した在宅医療・療養支援のロールモデルの開発

山本 五十年¹⁾、猪口 貞樹¹⁾、鈴木 紳一郎²⁾、加藤 洋隆³⁾、田尻 さくら子⁴⁾、山本 仙子⁵⁾、
岩本 智恵美⁶⁾、鈴木 優子³⁾、杉下 寿子⁶⁾、遠藤 真紀⁷⁾、中丸 由紀子⁵⁾

¹⁾東海大学医学部専門診療学系救命救急医学、²⁾財団法人同友会藤沢湘南台病院、
³⁾医療法人救友会湘南真田クリニック、⁴⁾東海大学医学部内科学系呼吸器内科、⁵⁾株式会社メディトピア湘南、
⁶⁾SMC訪問看護ステーションさなだ、⁷⁾SMCケアステーションさなだ

I-4 病棟看護師と訪問看護師間における情報提供に関する現状と課題

松下 成美、井出 玲子、川口 素賀糸、金古 澄子、井出 美由紀

JA長野厚生連佐久総合病院訪問看護ステーションうすだ

I-5 病院退院後、在宅期間が7日以内であった看取り症例の検討

長尾 和宏

長尾クリニック

I-6 当院における在宅療養支援の取り組み

～ALS患者の退院支援を通じて病棟看護師の役割～

川上 唯¹⁾、瓜生 伸一²⁾

¹⁾北里大学東病院神経内科病棟、²⁾北里大学東病院MEセンター部

I-7 介護療養型医療施設全廃に伴う在宅移行への試み

平野 佳子¹⁾、川野 友記子¹⁾、仲田 公彦²⁾

¹⁾医療法人社団 衿正会 生駒病院 医事管理部 医療相談室、²⁾医療法人社団 衿正会 生駒病院 医局

I-8 精神疾患に身体疾患を併発した症例の在宅生活を支える多職種連携のあり方について

橋本 もも¹⁾、塚本 哲也²⁾

船橋総合病院 ¹⁾医療福祉相談室、²⁾診療部内科

I-9 写真で広げる在宅ケアコミュニケーション

福元 ゆかり、遠矢 純一郎、前村 志保子、東 美由紀、柴山 美保子、竹内 ゆみ子、泊 奈津美、
中野 一司

医療法人ナカノ会

セッションJ「医学教育」

10 : 20 ~ 11 : 30

座長：和田 忠志 (医療法人財団千葉健愛会 理事長)

- J-1** 家庭医療後期研修フェロースhipとしての在宅専門医研修
～ 日生協在宅医療フェロ シップ東京～
平原 佐斗司¹⁾、藤沼 康樹²⁾
¹⁾東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所 在宅サポートセンター・研修センター、
²⁾生協浮間診療所、日生協家庭医療学開発センター
- J-2** 在宅療養支援診療所に開設した緩和ケア外来の意義について
平原 佐斗司
東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所 在宅サポートセンター
- J-3** 精神疾患をもつ介護者による看取り
～ 胃癌末期の統合失調症の姉を妄想性人格障害の妹が看取った一例～
平原 佐斗司
東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所 在宅サポートセンター
- J-4** 振り返りフォーマットを利用した「お看取り後カンファレンス」の試み
斉藤 康洋
医療法人社団 青い鳥会 上田クリニック
- J-5** 在宅ケアにおける家族事例検討会の効果と課題
～ ナカノ訪問看護ステーションと鹿児島大学の連携～
富貴田 景子¹⁾、泊 奈津美²⁾、中野 一司³⁾、小林 奈美¹⁾
¹⁾鹿児島大学医学部保健学科、²⁾ナカノ訪問看護ステーション、³⁾ナカノ在宅医療クリニック
- J-6** 国立病院機構東埼玉病院の在宅診療研修で研修医が学んだ内容に関する探索
木村 琢磨、今永 光彦、菊地 涼子、清河 宏倫、齋藤 成、青木 誠
国立病院機構東埼玉病院 総合診療科
- J-7** 多職種学生連携によるフィールドワークは学生の地域医療指向を強める
**井口 清太郎¹⁾、太田 求磨^{1,3)}、森山 雅人^{1,2)}、藤澤 純一^{1,2)}、長谷川 隆志^{1,2)}、鈴木 栄一^{1,2)}、
吉嶺 文俊⁴⁾、布施 克也⁵⁾**
¹⁾新潟大学 地域医療教育支援コアステーション、²⁾新潟大学医歯学総合病院 医師キャリア支援センター、
³⁾新潟県立中央病院、⁴⁾県立津川病院、⁵⁾県立小出病院
- J-8** 在宅医療における薬学教育6年制の課題
串田 一樹
昭和薬科大学
- J-9** 在宅医療と大学院教育
土居 弘幸、小松 裕和
岡山大学医歯薬学総合研究科疫学・衛生学分野